

かけはし

教育学研究科
静岡大学 教職大学院
NEWSLETTER
No.7
2018年3月3日


静岡大学教育学研究科・教職大学院 〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

教職大学院第8期生 成果報告書テーマ・大学院2年間の学びを振り返って

静岡大学教職大学院 第8期生



平成30年2月

【学校組織開発領域】

伊藤 智美 (静岡県立浜名高等学校)

学力向上を軸にした学校経営改善の在り方

— 高大接続改革および学習指導要領改訂をふまえて—

教職大学院で過ごした日々は、新たな理論と出会い、多くの方々からの刺激を受け、改めて学ぶことの面白さ楽しさを実感できた贅沢な時間でした。学校が子どもに少しでも多く学ぶ「面白さ」「楽しさ」を与えられる場所となるよう渦を作り続けていきたいです。

清澤 涼介 (浜松市立佐鳴台中学校)

新たなキャリア教育観を柱とした学校づくり

— 「人生100年時代」を見据えて—

I have met a lot of people and visited a lot of places. Then I found that my notions of education had been collapsing. I have noticed I am completely different to 2 years ago. I appreciate to be given a precious time and an opportunity of learning.



三宅 秀典 (静岡市立高松中学校)

「つながる力」を育む静岡型小中一貫教育の展開方法の開発

『学びの一期一会』この一言に尽きます。興味をもったことにアプローチすると、そこに出会いや発見があり、そこからまた新たな一期一会につながる。人脈が広がり、学びが深まり、視野が開ける。教職大学院の2年間は、そんな貴重な日々の連続でした。

村松 邦彦 (磐田市立大藤小学校)

小中9か年をつなぐカリキュラム・マネジメントの開発

大学院での学びや学校現場での実習を通し、教育を俯瞰することの重要性や人との繋がり大切さを改めて実感しました。様々な出会いと貴重な学びの機会に心から感謝します。今後も、広い視野を持ち、学び続ける教師として日々の実践に取り組んでいきます。



学校組織開発領域

【教育方法開発領域】

石川 史江 (磐田市立南部中学校)

中学校英語科におけるアウトプット力育成のための授業づくり—リアル化を意識したタスクの有効性に

焦点を当てて—

ここでの学びにより、実践知と理論が繋がり、現在と未来が繋がり、また、学びの輪の中でたくさんの方々とも繋がることができました。再度「教育の力」を強く実感できたこの思いを大切に、この学びを現場でさらにまた何かに繋げられるよう努めていきます。

臼井 秀明 (富士市立富士川第一小学校)
小学校社会科における「歴史的思考力」を育成する単元開発と評価方法に関する実践研究

—「社会的な見方・考え方」に焦点をあてて—

教職大学院では、最先端の理論や幅広い知識を学びながら、「授業はやっぱり難しい。授業はやっぱり面白い。」という原点を改めて感じました。この2年間の学びを活かし、同僚職員や子どもたちと共に成長し続ける教師を目指してまいります。

加納 慶士 (学部卒大学院生)
小学校社会科歴史分野における絵画資料の活用を軸とした単元開発と実践

この2年間で様々な経験をし、多くのことを学びました。本当にあつという間に終わってしまったなあという印象です。4月からは、いよいよ教員人生が始まります。大学院での学びをいかしつつ、学び続ける姿勢を大事に精進して参ります。

工藤 麻耶 (浜松市立芳川小学校)
社会や生活とのつながりを意識した有機的カリキュラムの開発に関する研究

—図画工作科・国語科の教科連携を対象として—

大学院での2年間は、教員として歩んで来た道を振り返るとともに、新たな目標を得た貴重な時間でした。各分野の専門家である先生方や院生仲間等、様々な人達との関わりから、1教科の学びにとどまらず子供の学びを包括的に捉えることや、物事を俯瞰して見ることの大切さに気付くことができました。大学院での学びを学校現場で生かしつつ、今後も学び続ける教師でありたいと思います。

杉山 貴志 (学部卒大学院生)
高等学校における数学的な見方・考え方を育む単元開発—微分積分概念を用いる問題解決を通して—

どんな教え方をすればいい授業なのかを学びたくて教職大学院へ進学を決めました。しかし、この2年間で、生徒のどんな学びを実現することがいい授業なのかを考えるようになりました。この教育観の変化が、教職大学院での学びの一番の成果だと思います。

鈴木 美智 (沼津市立門池中学校)
創造性・協働性を育成する保健体育科の単元開発と授業実践—中学校器械運動領域を対象として—

大学院に来て、これまでの勉強不足を改めて思い知らされました。各分野の専門家である先生方や院生仲間から多くの学びを得て充実した2年間で過ごすことができました。これからも学び続ける教師であり続けたいです。

戸田 宇海 (静岡市立清水興津小学校)
協働省察と授業実践の繰り返しによる教師の社会科授業力量形成に関する研究

—学年部研修の分析に焦点を当てて—

これまでの実践を振り返り、新たな知識を学ぶ機会として、教職大学院での学びは非常に有意義でした。先生方だけでなく、現職院生及び学卒院生の皆さんからも多くを学びました。ここで得たものを糧とし、子どもたちのため、力を尽くしていきたいと思っております。

服部 圭吾 (御殿場市立西中学校)
知識・技能を使うことによる資質・能力の育成—資質・能力発揮課題を軸にした中学校理科の単元構想と実践—

M1の時は、講義を中心に多くの理論を学んだ。この学びが自分の中でつながってきたのはM2のARだったと思う。自分が実践していく中で、それらの学びを生かすことができた。これから現場に戻ってもこの姿勢を忘れずに実践を積んでいきたい。

村松 義之 (森町立旭が丘中学校)
読解力向上を目指した国語科授業実践—説明文・論説文に焦点を当てて—

この2年間は悩むことが多かったです。しかし、多くの院生と真剣に議論する中で考えが啓けたり、学部卒院生と接する中で改めて教師としての自分に向き合えたりもしました。勿論、多くの教授の支えで今の自分が在るため、この学びを現場に還していきたいです。

渡野 広貴 (学部卒大学院生)
授業実践と省察の往還による授業力量向上に関する研究—「深い学び」の実現を目指した小学校算数科単元開発を通して—

この2年間で多くの経験をする事ができ、勉強させていただきました。また、現職の先生方と一緒に過ごすことで教員としてのイメージが湧き、視野を広げることができたと思います。ここでの学びを生かし4月から教員として頑張っていきたいです。



【生徒指導支援領域】

芦澤 優樹（学部卒大学院生）

道徳の実践を通じた生徒理解

—批判的思考と数学とのつながりに着目して—

教職大学院の2年間では、学部時代に学べなかったことを深く学ぶことができました。特に、実習での実践を通して生徒との関わり方を学ぶことができました。その実践に講義で学んだ理論や視点が加わることで、理論と実践を関連させて学ぶことができました。

岡本 曜（袋井市立周南中学校）

他者とのかかわりを通して学校適応感を高める手立て—学校行事に注目して—

大学院での2年間は、これまでの自分の実践を見つめ直すとともに、これからの自分、そしてこれからの教育の在り方を考える貴重な時間となりました。学校や教育を俯瞰し、「当たり前」を見直し、学び続けながら変化していく教師でありたいと思いました。

小泉 亘（清水町立清水中学校）

チームが機能する教育相談体制構築の実践的検討

「対話することで情報共有に発展」「進化し続けるチーム」学ぶことの奥深さと楽しさを体感できた2年間でした。各分野の専門家である先生方から指導していただき、これまでの教育実践や学校教育の課題に対して理論と結び付け、学び直すことができました。

酒師 直道（学部卒大学院生）

学校適応上に課題のある中学生と支援員の関係形成プロセス

—授業及び放課後における支援に焦点をあてて—

「問題行動は必要行動」である。大学院の2年間で、子どもの表れを見る目がとても変わりました。子どもに対する「見立て」が一番大事であり、様々な理論を学ぶ中で「見立て」の幅が広がりました。今後の人生に活かしていきたいです。



萩原 万葉（学部卒大学院生）

小学校における困り感を持った児童への心理教育的援助サービスの検討

アクションリサーチへの取り組みは、研究内容を深めるだけでなく自分自身を見つめ直すきっかけになったように感じています。来年度から始まる新任としての教師生活では、教職大学院での学びを糧にして自分なりに子ども一人ひとりと向き合っていきたいです。

深谷 陽平（島田市立金谷中学校）

中学校における“気になる生徒”のチームによる見立てと支援のプロセス

私は、教職大学院での学びを通して、今まで自分が感じていた疑問や、学校現場の抱えている課題を見つめ直し、自分に何ができるかを考えることができました。これからも、悩み、考え、学び続ける教師として、教育現場で渦を作っていきたいです。

【特別支援教育領域】

北住 美來（学部卒大学院生）

知的障害と肢体不自由を併せ持つ子どもと教師の個別指導場面における相互容容—二組の教師・子どもペアの指導場面の追跡から—

特別支援教育についてさらに勉強したいと思い教職大学院へ進学しましたが、2年間を通して、特別支援教育だけでなく教育に関する理論や現状など、様々なことを学ぶことができました。来年度からは、学び続ける姿勢を忘れずに、教師として成長したいです。

島野 聡子（熱海市立多賀小学校）

インクルーシブ教育に関わる教員に求められる専門性の向上を目指した取り組み—授業コンサルテーションを中心に—

この2年間、自分の教職人生を振り返り、これまでとは違う立場で教育活動を俯瞰する大変貴重な時間となりました。研究を通して授業UDが教員の専門性向上に有効であることがわかりました。これからも、授業UDの取り組みを広めていきたいです。

野崎 弘之（静岡県立清水特別支援学校）

小学校特別支援学級の現状及びニーズを考慮した特別支援学校のセンター的機能について

2年前の自分と比べて変わったことは、「視野の広がり」と「探究心」だと思います。それらを含め、大学院で学んだこと、身に付けたことをこれからの実践の中で生かし、現場に貢献していくことが2年間の学びの意味であると考え、一層の努力をしていきます。



水野 靖弘 (静岡県立沼津特別支援学校)
知的障害特別支援学校高等部における生徒と教師の
省察に着目した授業づくり
—校外での作業学習を通して—

大学院では、特別支援教育だけではなく、様々な視点から「教育」について学び、考える機会があり、多くの気づきを得ることができました。「多面的・多角的に見る、考える」「知ろうとする」「学び続ける」、学校現場に戻っても大切にしていきます。



修了生奮闘記

御殿場市立玉穂小学校 主幹教諭 平松 祐 2期生 (H22~H23年度) 教育方法開発領域

教職大学院を修了し早や6年。大学院修了後の教職生活は、大学院入学前とは大きく変わりました。前任校の附属静岡小学校では教務主任の仕事で、今年度からは公立校に戻り主幹教諭の立場になりました。

以前は、自分の学級・授業・分掌のことだけを考え、自分が動くことを第一に考えて仕事をしていましたが、現在の立場ではそういうわけにはいきません。学校全体の動きや、生徒指導上の問題、個々の子どもたちの抱える課題や保護者対応、若手の育成や研修の方向性など、考えることは多岐にわたります。

そんな時、この教職大学院の4つの領域で学んできたことが、問題解決の糸口になったり心の拠りどころになったりしています。幸い隣に座る教頭先生も、本大学院の先輩修了生ということもあり、昔話に花を咲かせながら楽しく仕事をしています。校内研修に、大学院の先生に来校していただくこともありました。

大学院での学び・人のつながりを、自分だけの宝物にせず、職場の仲間や地域の学校にも広げていきたいなと思います。

静岡県立浜名特別支援学校 教諭 戸田 剛 3期生 (H23~H24年度) 特別支援教育領域

箸が使えるようになったことを覚えていますか。多くの人が、知らないうちにできていたことと思います。

公園の遊具で遊んだりお絵描きしたりと、遊んでいるうちに箸が使える手になっていき、親や兄弟が使っている箸に憧れて自分もやってみたくらいと思いつき、箸を持ったことでしょうか。難しければスプーンに戻り、またしばらくしてお箸が持ちたくらい…。箸が使えるようになる手とやってみたくらいという気持ちを育てるのが、僕の仕事なのかなと思います。支援学校の子供は、障害からうまくできないことが多く、できないから自信を持ちにくい子供が多いです。大学院で身体の使い方について学んだ理由も、子どもに「できる」という楽しさを感じてほしいと思ったからです。

学校では、子どもが思いっきり遊べるために、吊り橋やボルダリングを作りました。発達の子どもたちの手を見て、力強く腕を使ったり握ったりすることをさせたかったからです。箸を使うことは、まだ難しくても「私、できない。」ではなく「私、できるかも…」になるよう、これからは子どもの身体と気持ちを育てていきたいです。

第4回 生徒指導支援領域主催 修了生・現役生合同研修会 吉田 堂前 海老岡 大井 田窪 田中 湯山

2月16日に浜松市立南部中学校で生徒指導支援領域の修了生と現役生による合同研修会が開かれました。昨年度退官された石田純夫先生と第7期修了生の廣田憲一教諭による道徳授業を参観し、「これからの道徳授業の在り方」についての研修を行いました。生徒は、前時に考えた「翼をください」の替え歌(自分の「願い」「夢」「憧れ」を表現したもの)を持ち寄り、それらをグループで再考したり紹介し合ったりする活動を行いました。

事後研修会では、教師自ら自己開示することの重要性や、生徒の「表れや変化」を教師はどう捉えるべきかなどについて議論が交わされました。情報交換・意見交換会では、修了生から「教職大学院での学び」が現場でどう生かされているかなどについて聞くことができ、有意義な時間をもつことができました。

発行責任者	専攻長	石上 靖芳	監修	担当教員	鈴木 秀志
顧問	M2 代表	村松 邦彦	編集長	M1	松原祐記子
編集委員	M1	山下 憲市	編集委員	M1	竹下 雅美
	M1	山路 崇仁		M1	堂前 拓耶
	ストレートマスター	湯山 理沙		ストレートマスター	高橋 裕貴

発行担当領域 (生徒指導支援領域) 吉田 堂前 海老岡 大井 田窪 田中 湯山

【編集後記】今年度も「かけはし」を3回発行させていただきました。多くの方とのつながりの中でこのニューズレターが発行できたことをありがたく思います。今後もよろしくお願いいたします。

